

密に打語り此末如何に成行くらんと安き心もなかりけり増て多仲の平生不快なる結城と花里の爲に無實の罪科に落されしなれば遺憾やる方なきのみ若殿の御爲一番の爲此末の成行の想像れて甚く心と痛め遂に枕に若たりしが今日明日と漸次に夢行さ果に頭も揚らぬ迄の重症にぞ陥入ける

○ 第八回

爰に又野村多仲の家宇治虎吉と云ふ若黨あり本國岸和田本町ある瀬戸奥と云ふ宿屋の養子なるが八年前より多仲の方へ奉公に來り長の歲月一日の如く最實貞に勤めければ多仲も二なき者に思ひ就中目を懸て使ひとりぬ然るに今般主人多仲には識者の舌頭に掛りて無實の罪を負ひ國詰を申附けらるゝさへあるを加之疾病に罹りて極めて重症の体なれば心の憂ひ一方ならず如何に分別を費すとも吾等如き下賤頑愚の者の企及ぶべき事ならねば此上は神佛の冥助を仰ぎて主人の災厄と疾病を抜除かばやと平素信し奉つる赤坂の氷川神社へ七夜の參詣と企立毎夜五つ時即家内の寐靜定る時刻と類ひて邸を脱出氷川神社に至り

て百度石を一回匝りての垢離を取り一夜の内に百度石を百度匝り主人の病厄祓除を一必に祈禱し明六つ時迄に邸に還り例の如く立動されれば知る者絶て無りけりわくて満する七日の夜例の如く垢離を取て一心に祈禱せしが夢幻の境に空より一頭の白狐雲に乗て天降り虎吉の頭上に佇立て頻に火煙を噴出し今にも飛かゝらん有様なれば虎吉の少も恐るゝ心なく是こそ御神の驅役使ならめ吾此一命と取て主人の命を救はしめたまへとのみ尙も祈念を凝しつゝ頓て閉たる目を開けば只松吹く風の音すみて空にの晨星の関于くのみ既に曉近き景色なれば是こそ大神の冥助あらせらるゝ祥ならめと心に甚く打喜び頓て又垢離と即て神前に跪坐し暫時祈願に時と移し其朝の例より些少遅れて立歸しが最早家内の疾く起出て虎吉の姿の見ゆると不審に思て尋ねる處なれば虎吉の程好辨解を爲して奥に至り多仲の横簾と伺へば多仲の床を離て坐つてをり常より心地好げなる様子なれば虎吉の心の内さてこそ明神の加護誤らず主人の疾病を除給ひしものならめと甚く喜びつゝその容体を尋れば多仲の莞爾に世に不測ある事もあればあるもの哉今曉の夢に一頭の白狐枕頭に立つよと